

貧困や紛争、疫病や気候変動など…世界中で向き合わなければいけない問題が、今、山積みになっています。誰ひとり取り残されない持続可能でよりよい社会を、2030年までに目指す国際目標“SDGs”。SDGsで示された17の目標それぞれと農業や組織活動、JAとの関わりを、実際に行われている取り組みとともに紹介します(4号連載予定/第2回)。SDGsを意識した毎日の行動によって、わたしたち自身や未来を担う子どもたち、地球上の人々の笑顔につなげましょう。

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



エネルギー をみんなに そして クリーン に

あらゆる人が今より豊かな生活を送り、社会を発展させるためには、エネルギーを安定的かつ将来にわたって使用できる環境づくりが必要です。そのためには、わたしたちの日常生活をはじめ、農業でも生産や流通、販売などの様々な場面で、効率化や省資源化に取り組むことが重要になります。JA秋田なまはげでも**効率化のため、段ボールを使わずにコンテナや簡易包装による出荷**を一部の品目で導入しているほか、遠方の市場には**管内の複数の産地や他JAのものを積み合わせて出荷**することで、**輸送コストを削減**しています。また、「**地産地消**」は生産から消費まで近い場所で行われるため、**省エネルギー化**につながります。JAの直売所や朝採り野菜の販売も、「**地産地消**」を楽しみながら**エネルギーを効率的に消費する**機会のひとつです。



他産地の花きと積み合わせて  
県外市場に出荷



朝に収穫した枝豆をその日のうちに  
管内の量販店で販売

8 働きがいも  
経済成長も



働きがい も 経済成長 も

誰もが働きがいのある仕事に励むことができると、持続可能な経済成長を生み出します。働きがいのある農業現場を作るためには、**農作業の機械化や圃場の整備、ICTなどの先進技術の導入**によって生産性を上げたり、労働環境をより快適に整えたりすることが有効です。JAは生産者への**技術指導や情報提供、関係各所との実証実験**などを通して、農作業の効率がさらによく、生産者の所得がより多くなる農業の実現を支援しています。また、人々が所得や資産を管理し、投資を行ったり受けたりして経済活動に参加するためには、**金融や保険などのサービスの存在が欠かせません**。JAの金融共済事業も管内の人々に**貯金や融資、共済などのサービスを提供**することで、**地域の経済成長を支えています**。



ドローンによる  
除草剤散布の実証実験



ネギの現地研修会での  
最新型収穫機の実演